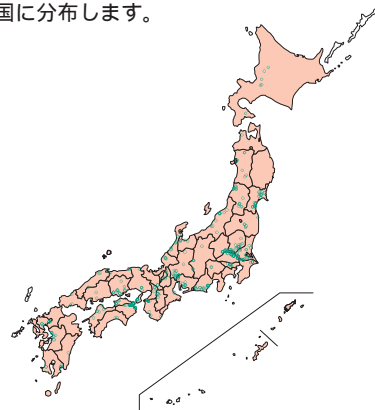


分布

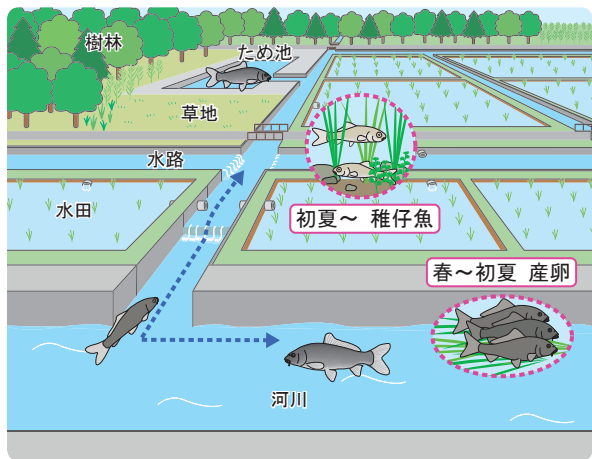
移植・放流が盛んで、全国に分布します。



●：「田んぼの生きもの調査」での確認箇所

メモ 身近な魚で古くから親しまれていますが、純粋な野生のコイは少なく、現在みられるものの多くは、体高の高い飼育型養殖種です。口ひげは上あご後方と口角にそれぞれ1対あります。

生態 ----- : 本来の移動経路 ○ : 生息環境



主な産卵環境と生息環境 <--> : 主な生息環境

樹林・草地	ため池	水田	水路	河川	海
	産卵			産卵	

生活史

ため池や河川、水路に生息し、淵を好みます。春から初夏に、浅場の水草・抽水植物に産卵し、仔稚魚も水草の多い止水域や緩流域で成長します。

写真

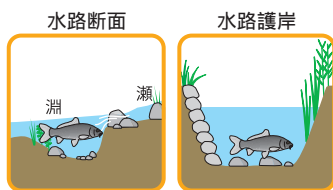


コイの群れ
狭い水域で増えると、水草や貝などを食べつくしてしまう場合があります。

配慮対策

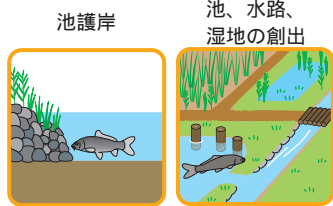
生息環境の確保
水路における、淵、緩流域、抽水植物・水草の創出
水草の多い止水域の創出

環境配慮型水路の対象工法



- 【水路断面】
- 瀬・淵 p.69
- ワンド p.70
- 乱杭工・置石工 p.71
- 敷石、砂、砂利、玉石、植生 p.72
- 【水路護岸】
- 土水路 p.73
- かご系 p.74
- 木系 p.75
- 自然石系 p.76
- 二次製品系 p.77
- 複合系（井桁護岸） p.78

保全池・ビオトープの対象工法



- 【池護岸】
- 自然石系 p.85
- 複合系 p.86
- （捨石等による緩傾斜護岸）
- かご系 p.87
- 木系 p.88
- 二次製品系 p.89
- 【池、水路、湿地の創出】
- 保全池 p.90
- 耕作放棄地等のビオトープ化 p.92

【配慮ポイント】

・産卵環境となる水草・抽水植物の生育が可能で、生息環境となる淵と緩流を形成する工夫が必要です。

移動経路の確保

水路内の落差の解消

魚道の対象工法



- 【水路魚道】
- 階段型 p.61
- 隔壁型（千鳥X型） p.62
- 隔壁型（ハコソウ型） p.63
- 片斜面粗石付魚道 p.64

【配慮ポイント】

・水路における生息を配慮して、水路魚道を設置します。遊泳力が強く、いずれの魚道タイプも適用できますが、体が大きくなるものがあるため、魚道の水深と幅を大きくとる必要があります。